

研究部だより

令和2年7月15日(水) No.3

授業の動画配信の取組を振り返って

研究部では、臨時休校期間中の授業の動画配信の取組を振り返るために、児童、保護者、教員へのアンケートを行いました。先生方、御協力ありがとうございました。この「研究部だより」は、そのアンケートへの回答や具体的な記述についてまとめたものです。

この結果を共有することで、日々の授業づくりや、今後訪れる可能性のある【第Ⅲ期】の取組に生かしていきます。



I 児童アンケートの結果から

1 授業動画を通しての学習への取り組み方

(1) 取組の状況 (※小数第2位以下は切り捨て)

①いつ取り組みましたか。

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
その日のうちに	72.2%	69.2%	71.4%	72.4%	78.4%	82.3%
何日かかけて	19.3%	23.9%	24.3%	18.3%	14.7%	15.0%
土日・祝日に	8.4%	6.8%	3.3%	3.4%	3.4%	0.8%
その他	0%	0%	0.8%	5.7%	3.4%	1.7%

②誰と取り組みましたか。

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
自分一人で	21.0%	30.7%	68.9%	65.5%	89.7%	96.4%
親と一緒に	66.3%	64.1%	28.5%	28.7%	10.2%	2.6%
親以外の家族と	12.6%	5.1%	0.8%	3.4%	0%	0.8%
その他	0%	0%	1.6%	2.2%	0%	0%

③すべての授業に取り組むことができましたか。

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
すべて	84.8%	77.1%	81.5%	88.3%	80.6%	78.5%
だいたい	10.9%	16.1%	17.6%	6.9%	17.0%	17.8%
半分くらい	4.2%	5.0%	0%	2.3%	2.2%	2.6%
半分以下	0%	1.6%	0.8%	2.3%	0%	0.8%

<アンケートの結果から>

学年が上がるにつれて「その日のうちに」「自分一人で」取り組んだ子供の割合が大きくなっている。学年の実態によるが、授業を通して機器操作に慣れさせていくことが、保護者の負担を減らしながら自分で取り組める子供を増やすことにつながると考える。

(2) 動画による学習を通して頑張ったこと、困ったこと

①頑張ったこと

子供たちにとって初めての動画による学習だったが、アンケートから、子供たちが意欲的に学習に取り組み、各教科それぞれの学びを深めたことがうかがえた。特にノートをもとめることを頑張ったという記述が多く、**動画を通してのノート指導が奏功した。これが6月の学校再開時の授業開きにもつながったと考える。**

また、「附小エクサティブ」に楽しく取り組んだという記述も多かった。全ての教員が出演したことが、**子供たちの安心感**にもつながったようである。

②困ったこと

どの学年も、板書の見えづらさ、声の聞き取りにくさに関する記述が多かった。また、アンケートの結果から、どの学年にも、1日分の学習に「何日かかけて」取り組んだ児童が一定程度いたことが分かる。習い事や保護者の帰宅時間等の影響から、配信のペースに間に合わないという記述もあった。**端末等の環境整備、機器の操作技能の向上、そして動画の量的・質的改善を図っていく必要がある。**

2 学校再開後の授業への子供たちの期待や不安

友達と意見を出し合うこと、理科の実験や音楽の楽器演奏、英語のコミュニケーション活動等、**動画を通してでは十分に経験できなかった学習に期待する記述が多く見られた。**

反面、不安を記述している子供も多かった。コロナウイルスに感染しないか、学習が遅れてしまわないか（特に6年生では受験への不安）、各種行事がどうなるのか等、子供たちは多くの不安を抱えながら、再開後の学校で生活をしている。**こうした不安を少しでも解消できるよう、子供たちに丁寧に語り掛けていくことが大切である。**

II 保護者アンケートの結果から

○取組に対する評価

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	全体
評価する	75 (72.2%)	74 (85.1%)	87 (85.3%)	92 (86.0%)	92 (82.9%)	87 (81.3%)	507 (84.9%)
まあまあ 評価する	8 (19.3%)	9 (10.3%)	14 (13.7%)	15 (14.0%)	19 (17.1%)	20 (18.7%)	85 (14.2%)
あまり 評価しない	0 (0%)	4 (4.6%)	1 (1.0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (0.8%)
評価しない	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

<アンケートの結果から>

本取組を「評価する」、「まあまあ評価する」と答える保護者がほとんどだった。また、その理由として、**学習の習慣や生活のリズムが整ったことを評価する記述が多く見られた。**臨時休校中に、本取組が家庭学習の改善に果たした役割は大きかったと考える。

Ⅲ 教員アンケートの結果から

1 全体を通して（子供たちの学習の取組の様子など）

（1）成果

多くの子供たちが動画を通しての学習に意欲的に取り組んでいた。また、授業の動画を問題解決型で作成したり、ノートの指導を行ったりしたことで、学校再開時の授業への連続性をもたせることができた。休校期間中の学習の蓄積があったことで、6月の学校再開後、スムーズに授業を行えることにつながった。

また、1年生の子供や保護者にとっては、動画を通して担任の顔を知り、小学校の学習をスタートできたことは大きな安心感につながった。

（2）課題

取組の質的な部分に、大きな差が出ている。

例えば学習内容が分からない時に、動画を繰り返し見て考える子供と、疑問をそのままにしたり、早送りして答えを確認したりする子供がいたようである。配信のペースに追い付けず、全ての学習を終えられなかった子供もいた。

また、保護者の関わり方に影響を受ける部分が多い。保護者と一緒に学習に取り組んだり、取組の内容を保護者が確認したりしている場合、子供はよく力を高めている。しかし、「出勤やテレワークのため、子供が学習に取り組めるのが夕方以降になってしまう」といった声も聞かれた。こうした声に耳を傾けながら、保護者の意識の向上を目指すことが必要である。

2 私たちの学び ～この未曾有の経験を通して～

（1）教材研究の深まり

臨時休校期間中、学年の教員が協働して動画の作成を行ってきた。この取組を通して、学年の教員同士や各教科の教員との対話や連携が生まれ、本時のねらいの明確化、子供の意欲を高める教材の提示、そして発問の精選（子供の「問い」を大切にしたい授業づくり）など、教材研究を深めることができた。これが日常的な「カリキュラム・マネジメント」であり、学校再開後も大切にしていきたい。

（2）自らの指導の技術や方法の見直し

日々ビデオ撮影を行い、それを確認することを通して、話し方や身振り手振り、表情、板書など、自らの指導技術を見直し、改善を図るよい機会となった。また、ICT機器の効果的な使用や、Google フォームを活用した新教材の開発など、新たな可能性を見出すことができた。

（3）授業のよさ、学校の役割の再認識

これまでであれば日々、当たり前のように授業をしてきたが、それができない状況に置かれることで、集団でこそ学べることや、育てられる力があることを改めて認識した。友達の考えから学ぶこと、お互いの考えを比べたり、結び付けたりして高めていくことなど、これからの授業づくりでより一層大切にしていきたい。



IV 更なる学習指導の充実のために ～【第Ⅲ期】に向けて～

(1) 遠隔的・双方向的授業システムの継続・拡充

【第Ⅰ期】、【第Ⅱ期】の取組を通して構築したシステムを継続しながら、これまでの経験と反省を生かし、板書の量や見やすさ、音量の調整、1本の動画の長さなど、子供にとってより学びやすい動画の作成に取り組んでいく。

(2) オンデマンド(動画配信)×オンライン(同時双方向)

動画配信に加え、Google クラウドルームを活用して朝の会、帰りの会を実施することにより、日々の子供たちの様子をより把握できるようにしていく。

(3) 機器操作・情報モラルに関する指導の充実

CSの授業等を通して、機器操作の仕方や情報モラルに関する指導を充実させていく。また、動画の利点(繰り返し見られること、自分のペースに合わせて一時停止できることなど)について指導していくことで、子供が動画の利点を生かして学習を進められるようにしていく。

(4) 家庭との連携の拡充

休校期間が長引く場合にはオンラインでの個別面談等を実施して、保護者や子供たちの心のケアに努めていく。

(5) 個別サポートの継続

Google フォームや Google クラウドルームを更に活用して個別サポートの取組を充実させていく。ノートやワークシートの写真の提出等でそれぞれの学習状況を把握するとともに、個別の質問にも答えられるようにしていく。



文責：研究部（三井）